

UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい
母乳育児支援ガイドベーシック・コース
「母乳育児成功のための10ステップ（10カ条）」の実践



1

赤ちゃんとお母さんにやさしい
母乳育児支援

20時間基礎セミナー

セッション1：赤ちゃんにやさしい病院運動

revised 2016助

セッションの目的

以下を習得する

1. WHO/UNICEF
「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」
2. 「赤ちゃんにやさしい病院運動(BFHI)」
3. HIV感染率の高い地域でのBFHIの重要性
4. このコースの目的
5. 他の活動との連動

3

1. 「乳幼児の栄養に関する
世界的な運動戦略」



「世界的な運動戦略」(2002年)
「赤ちゃんにやさしい病院運動」
(BFHI)などの既存プログラムを土台として構築

5

「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」
(2002年)より

- 目的は最適な栄養法を通じて生存率を改善すること
- 生後6か月間は完全に母乳だけで育てられること
- その後は月齢に合わせて十分な量の安全で適切な栄養を含んだ補完食（いわゆる離乳食）を与えながら、母乳育児を2年かそれ以上続けること
- 母親が十分な栄養をとれること、社会や地域でサポートされることを支持

6

- 乳児にとって不適切な栄養法とは？
- 不適切な栄養法によって、家族や地域、保健医療施設にはどのような影響がある？

7

乳幼児の栄養法を改善することは世界共通の課題

- 乳幼児の不適切な栄養法により
 - ✓ 毎日約5,500人の子どもが死亡
 - ✓ 多くの子どもに長期的な影響を与えている
発達障害、低栄養、感染症、慢性疾患など
 - ✓ 子どもの肥満の増加

8

2. 「赤ちゃんにやさしい病院運動」(BFHI)

BFHIとは

- WHOとUNICEFによる世界的な運動
- 目的
母乳育児を当たり前のものとしてサポートする保健医療環境をつくり、すべての赤ちゃんが人生の最高のスタートを切れるようにすること
- 1991年に始まった
- 2007年には世界中で22,000以上が認定された
- 世界共通のアセスメント・認定を行う手順が含まれている

10

日本のBFH

- 今まで認定された施設は73施設
(うちBFH認定返上 3施設、分娩取り止め 4施設¹⁾)
- 2013年時点で69の認定施設が認定されている
- 全国で分娩を扱う産科施設の約2-3% (分娩施設は2014年は2431施設)²⁾

1) 日本母乳の会
http://www.bonyu.or.jp/index.asp?patten_cd=12&page=no=11
2) 日本産科婦人科学会が運営している「周産期医療のひろば」
<http://shusanki.org/area.html>

11

BFHIの目的

「母乳育児成功のための10カ条」を実施し
保健医療施設への無料や低価格の
母乳代用品*の提供をなくすこと

(*人工乳などの母乳の代わりに乳児に飲ませたり食べさせたりするもの:
詳しくはセッション4で)

12

BFHIは枠組みの提供

- BFHI
最適な乳児栄養法ができるために必要な技術を母親が獲得できるような枠組みを提供している
- 「世界的な運動戦略」
BFHIを推進し、保健医療従事者への研修に母乳育児支援を入れること、母乳育児に関するデータの改善を要求している

13

3. HIV感染率の高い地域におけるBFHIの重要性

HIV陽性率の高い地域でのBFHI

- HIV陽性の女性にも特別な援助を提供するWHO/UNICEFとUNAIDS（国連エイズ合同計画）『HIVと乳児の栄養法に関する方針』
- 母親は乳幼児の栄養法に関する十分な情報を得て、それに基づいた決定ができるようになる支援を受ける権利がある
- 日本では人工栄養法であり、その方法等について支援する

15

4. この20時間コースでどのように保健医療施設を支援できるのか

この20時間コースで話すこと

- 「10ステップ」の意味
- 「10ステップ」をいかに実行するか
- 保健医療施設を「赤ちゃんにやさしく」することがスタッフにとって重要であること
- 母乳代用品のマーケティングに関して
- BFHIアセスメントの過程

17

第1ステップ＝方針をもつ

母乳育児についての基本方針を文書にし、関係するすべての保健医療スタッフに周知徹底しましょう

18

方針があることの意味

方針＝治療のプロトコルでもなく、ケア（援助）の標準でもない

- 方針があることで
 - ✓ 母子に効果的/一貫性のあるケア（援助）を保証する
 - ✓ 標準的な支援を提供できる
 - ✓ 実際の行動の裏づけとなる
 - ✓ スタッフ全員がプロトコルと標準に従うことに同意し行動するよう求められる
 - ✓ 特殊な状況で方針通りできないときには理由を記録する必要がある

19

第2ステップ＝トレーニング

この方針を実施するために必要な技能を、すべての関係する保健医療スタッフにトレーニングしましょう

20

コースの目的

- 1人ひとりのスタッフが、母親が早期から母乳だけで育てられるように、自信をもって支援できるようになること
- その施設が「赤ちゃんにやさしい」と認められるように変わっていくこと

21

コースを通して学ぶ内容

- コミュニケーション・スキル
- 「10ステップ」の実践、「国際規準」の遵守
- 妊娠中の女性と母乳育児の大切さを話し合い、支援する方法
- 肌と肌とのふれあい、母乳育児の早期開始
- 手搾乳、抱き方/吸いつかせ方の支援
- 退院してからの母乳育児支援の情報提供
- 母乳育児をしていない母親との話し合い
- 母乳育児の助け・妨げとなることについて
- 母乳育児の妨げを克服する方法

22

コースに参加することで

- 知識・スキルのレベルを上げ、さらに自信を持ち、医療施設で一貫した情報と実践を提供できるようになる
- 「赤ちゃんにやさしい」実践の基礎を学ぶ

23

5. 「世界的な運動戦略」と他の活動との連動

「世界的な運動戦略」



母乳育児を推進・保護・支援するような国家の政策、法律、プログラムによって支えられ、働く女性の母性保護の権利を擁護

25

Take-Home Messages

- 「世界的な運動戦略」
児が最適な栄養を得る助けとなる既存プログラムが基盤
- HIV感染率が高い地域でもBFHIが大切
- BFHI: 「10ステップ」と「国際規準」を含む
- このコースの目的:
支援者がスキルに自信を持ち支援できるようになる
 - ✓ コミュニケーション・スキル
 - ✓ 「10ステップ」の「赤ちゃんにやさしい」実践の基礎、「国際規準」遵守

26